

カトレア

2015 Spring

100
平成 27 年

Cattleya

川内市医師会立市民病院



ちゅうりっぷ園 第21回保育証書授与式

CONTENTS

特集Ⅰ「カトレア」100号を迎えて
特集Ⅱ 外来満足度アンケート調査結果
看護部だより「ひまわり」／新人紹介
NEWS
身体に優しい健康レシピ
リレーエッセイ

基本理念

私たちは、地域の中核病院として、急性期医療を推進し、安全で信頼される医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、信頼され満足される医療を目指します。
2. 職員が互いに尊重しあう職場作りをめざし、チーム医療の充実に努めます。
3. 質の高い急性期医療を推進し、高次救急医療の確立を目指します。
4. 地域の医療関係機関と連携し、地域社会に貢献します。

患者さんの権利

1. 良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 自分の病気について納得するまで十分な説明を受け、その上で検査や治療を選択すると共に医療機関を決定する権利があります。
3. 個人の情報は保護される権利があります。
4. 自分の診療内容について知る権利があります。

カトレア100号を迎えて

事務部長 米山 光明

事務長室の本棚に、カトレアの綴りが幅をきかせ、本棚を窮屈にしている。解放させたいが棚も狭くギッシリだ。前から「どげんかせんといかん」と思っていたが、今回発行100冊を記念に原稿を依頼され、日の目を見る事になった。月間カトレアは、当院の互助会組織である「カトレア会」から、ネーミングされたと聞いている。早速第1号を開いてみた。第1号は、2001年（平成13年）8月に発行されている。私が病院に採用いただく約5年前である。因みに、その頃の病院は、地域医療支援病院認定・リハビリ病棟新築・CT等大型医療機器を更新した時期である。創刊にあたって、当時の川内市医師会長の濱田國弘先生から寄稿を頂いている。文面の書き出しは、今、医療機関が置かれている環境は、医療ビッグバンなどの言葉に象徴されるように、これまででない厳しさを増し、まさに構造改革の時を迎えております：とある。前年からの介護保険制度・療養型病床群への転換、薬価基準単価の引き下げ診療報酬の包括払いへの移行等で当院も丁度経営診断を受け改革に取り組もうとしていた背景を説明されている。また、当時の院長丸古先生は、より良いチーム医療には、患者さんの情報の共有と同時に、共同作業である他の部門の情報を知る必要性や、目標を設定するための資料提供等、情報誌に寄せられる貴重な情報に期待する内容が記載されている。

数ページめくると、2001年11月に発行された、「季刊 市民病院ニュース」第一号も続けて綴じてあった。開いてみると、丸古元院長の創刊によせて、リスクマネジメント部会紹介（医療事故防止対策委員会のマニュアル図）、ロビーコンサート開催、リハビリスタッフの院外活動内容紹介、他看護部研修・職場体験学習・集団救急事故訓練が写真入りで紹介してある。写っているのは、「ふくよかな丸古先生」である。医局21名の医師紹介も写真で紹介されており、石部院長も若い。残念な事に、季刊については、第2号以降は綴られてい

ない。月間カトレアの過去分をめくっていくと、永年勤務頂いている職員の若き時代の笑顔に私も笑顔になる。単純に、若いて素晴らしいことだと実感する。当初から内容も充実しており素人手作りで大したものである。個人情報保護法という世界が出てきて以降何かしら制約もあり、やりづらい感がある。但し、いろんな情報を発信する必要性は、一層高くなってきた。内容も、職員向けか、外部向けかと議論も絶えない。

そういう事を踏まえ、最近「連携室だより」を医療機関用に発行することにもなった。インターネットでのホームページが充実してきたこともあり、「カトレア」は2・3年前から月間発行から四季報として発行している。14年の月日を経て、記念すべき100号を迎え、病院の収入は10億程度増収しているが、設備や労働力に化け質の向上に投資している。最近海外まで評判になっている衣類等の片付け方は、ときめくか・ときめかないかを判断に、ときめかない物は捨てるという手法であるようだ。その気持ちは良く分かる。では人をときめかすには、仕事ができる・魅力がある・イケメン などなど：判断する人によって基準が難しい。自分に置き換えて、せめて、「ときめかない」と捨てられる人間にはなりたくないものだと奮起するが、既に加齢臭のとき、どうなるものか。

さて、「カトレア」に関しましては、ホームページと共に当院の機能の発信や院内での行事・アンケート改善報告等地域へ当院の医療や経営情報・活動を提供する唯一の手段として、病院を身近に感じて頂ければ有難いと考えている。ホームページには、ご意見を記載いただけるようシステム化している。また院内のご意見箱からも色んな意見を寄せて頂きたいと願っている。100号を記念して、改めて地域の皆様へ感謝を申し上げ、更なるご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。「カトレア」は、一人の担当では大変苦労します。職員皆さんの更なるご協力も引き続きお願いします。



第12号
2002年
7月発行



第9号
2002年
4月発行



第1号
2001年
8月発行
創刊号から12号までは
白黒でした



第23号
2003年
6月発行



第19号
2003年
2月発行



第13号
2002年
8月発行

デザイン変更
表紙がカラーに!

カトレア100号を迎えて

システム資材管理室 室長 萩原 龍一

広報誌「カトレア」100号おめでとうございます。

創刊の細かい記憶はあまり覚えておりませんが、ある日、院内で開催されていたグループワークに招集され、広報誌の制作を突然依頼されました。当時、医療機関で広報誌を作ることが広がっており、医療機関の広報の規制緩和の流れの中、近隣の施設でも広報誌というものが集まっていました。当院でも広報誌というものは存在しておらず、誰ひとり広報誌の作り方を知っている人がいない状態でのスタートでした。編集長である事務長と私でコーナーを作り、原稿依頼、写真撮影、紙面のレイアウトを行い、2001年7月に創刊号「カトレア」の発行にこぎ着けました。(タイトルについては、広報誌を立ち上げるグループワークでメンバーの意見から当時の互助会にカトレア会というものが存在し、そこから頂いたと思います)

当時は月1回ペースでの発行でしたので、発行の間隔が短く、また全ページモノクロでした。毎回ネタ探しに苦勞し、つねに院内の行事や題材になるものはないか、探し回っていたと思います。流石に院内をうろろると探し回っていると協力してくれる人や情報を教えて頂けるようになりました。原稿を依頼した際も、こころよく引き受けてくださった方々には感謝しております。1年後には表紙がカラーになり、途中から表紙のデザインの変更も行ったと

思います。今ではオールカラーの立派な広報誌に育っています。

創刊から続いている新人紹介やリレーエッセイは、当時から大事なコーナーでした。現在まで続いているコーナーとしては、この2つになります。リレーエッセイは書き手の個性が様々に伺い知ることが出来てとても面白いコーナーではないでしょうか。

当時、広報の研修に参加したときの講師に言われた言葉に「とにかくどんなことがあっても続けることが大事ですよ」と言われたことを覚えています。毎号、毎号発行しつづけることで、50号、100号となり、それが広報誌の厚みとなります。毎号発行し続けることで、積み重なっていく厚みが病院広報誌の歴史になると思います。

広報誌の担当が、私から連携室、そして広報係の担当者へと続いていることはとても喜ばしいことだと思います。

現在100号まで来ました。この厚みが200号・300号と発行されることを願います。



第35号
2004年
6月発行



第32号
2004年
3月発行



第27号
2003年
10月発行

このころは毎月発行でした



第58号
2006年
5月発行



第52号
2005年
11月発行



第49号
2005年
8月発行

カトレアの文字が目立ちます
(デザイン変更2回目)

カトレア100号を迎えて

医療情報管理室 主任 山内 香代子

「カトレア」創刊100号、おめでと
うございます。これもひとえに職員や関
係者の皆様のご協力があったからこそと
感謝いたします。

さて、わたくしは平成20年より今年の
2月まで広報担当として「カトレア」制
作に携わってまいりました。前任者から
の引継ぎで1号からの「カトレア」綴り
を受け取った際のその重みに、歴代担当
者の苦勞と歴史を感じ「絶対にとだえさ
せてはならない」という想いを胸に、締
め切りに追われる日々を送ってきたよう
に思います。

担当となつてまず、内容の見直しと充
実、そして手に取ってもらえる病院誌作
りを目的にページ数と発行月の変更を行
いました。内容も看護部日より「ひまわ
り」からの抜粋、院内外の行事や出来事
をお伝えする「NEWS」、職員のとつて
おきの笑顔の「今月のスマイル」、みな
さまからのご意見や苦情に関する回答
「ご意見箱」、リクエストの多かった管理
栄養士による「健康レシピ」などの定番
コーナーを新たに設置し、充実を図りま
した。また、「リレーエッセイ」は第1
号から続いている伝統のコーナーであ
り、いずれ1冊の本にできればと考えて
おります。

取材にもよく出かけました。なかでも
印象に残っているのは、毎年行われる消
防局・行政との「集団救急事故訓練」、鹿
児島県原子力防災訓練、川内南中学校
の校庭で行われた「ドクターヘリ実地訓
練」などです。どの訓練も本番さながら

の緊張感のもと、医師や看護師のキビキ
ビとした動きを追うのが精いっぱい、
訓練の邪魔にならないよう必死にシャッ
ターを切り続けたことを思い出します。
また、院内では各部署での行事やイベン
ト・職員の自然な表情や院内風景を撮影
するため、盗撮しながら（カメラを見つ
けると蜘蛛の子を散らすように逃げてし
まうのです）シャッターを切る私を見て
不審者？と感じた職員も少なからずいた
のでは。担当となつてからの6年間は
あつというまで、いろいろな経験をさせ
ていただきました。

さて、広報には「売り込み」「宣伝」
のイメージがありますが、本来の目的
は英語のPublic Relationsが示すように、
社会との良好な関係を維持すること
です。病院広報は、医療活動が信頼でき
るものであることを、わかりやすく論理的
に伝える活動であり、そのように革新し
ていこうとする活動でもあります。これ
を徹底してこそ、必要とき優先して選
ばれる存在になります。また、広報誌発
行やホームページ更新を継続していくこ
とは「信頼の貯金」であるといえます。
危機に遭遇したときも、信頼の残高に
よつて猶予が与えられるのです。

今後、病院のあり方を患者さんや地
域医療機関の視点で考え、当院の経営風
土を改革するミドルマネージャーとして
の役割を担えるような広報をめざし、ま
すます充実されていくことを祈念して祝
詞と致します。



第73号
2008年
7月発行

73号から今の見慣れたデザインになりました
(デザイン変更4回目)



第72号
2008年
1月発行



第66号
2007年
1月発行

66号から72号まで連携室だよりと合作?
(デザイン変更3回目)



第91号
2013年
1月発行



第85号
2011年
7月発行

85号から表紙以外も
フルカラーに



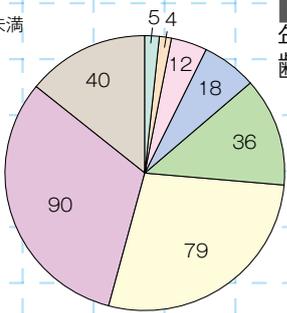
第78号
2009年
10月発行

外来満足度

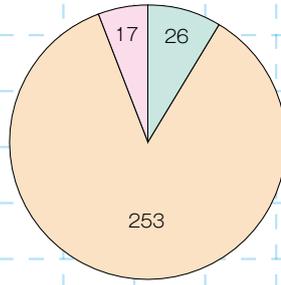
アンケート調査結果



- 20歳未満
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代
- 80代

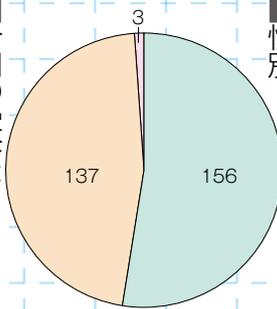


■ 年齢



■ 初診 ■ 再診 ■ 無回答

■ 今回の受診は？



■ 男性 ■ 女性 ■ 無回答

■ 性別

対象患者さん情報

- 期間 2月7日～26日
- 回答数 296枚
- 配布場所 1階外来フロアー
- 回収方法 回収箱・郵送

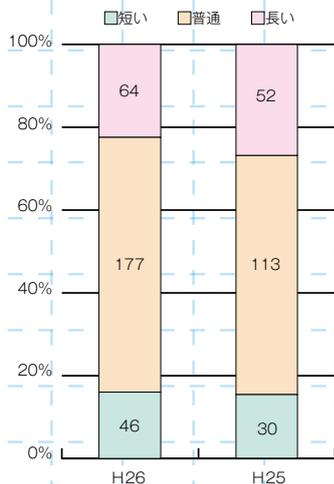
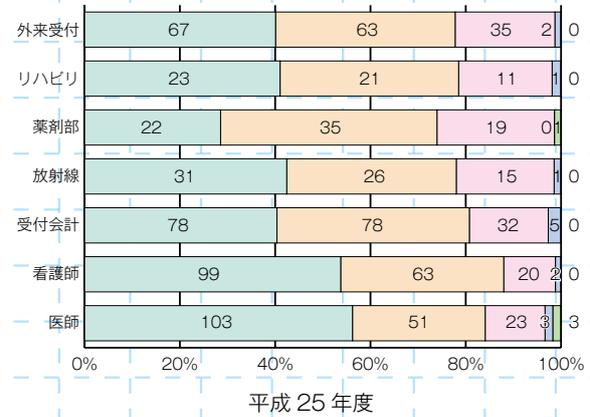
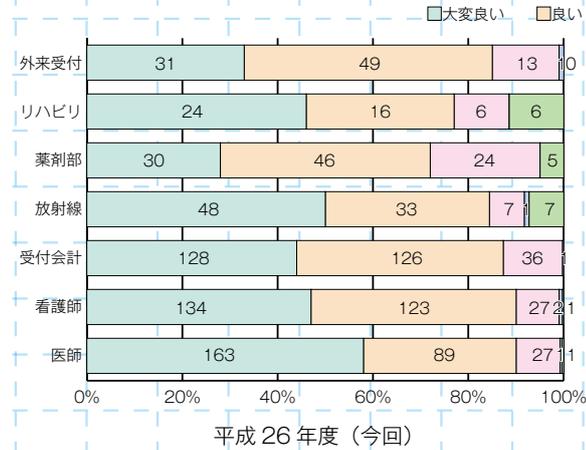
実施方法

職業別の印象はどうでしたか。

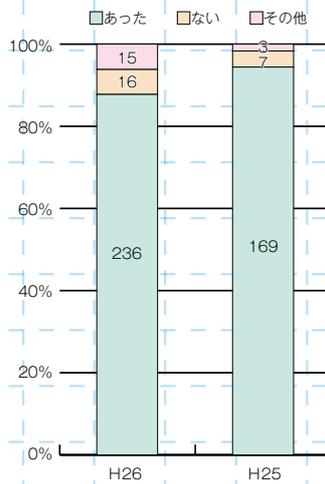
笑顔はありましたか。

職員から患者さんへの説明がありましたか。

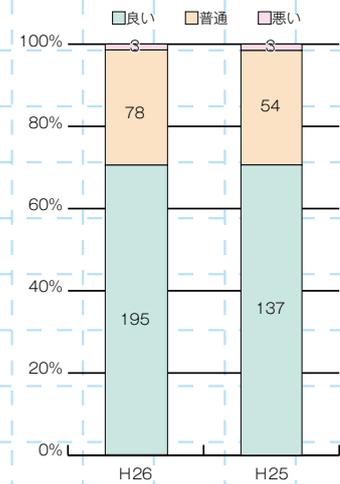
待ち時間は長かったですか。



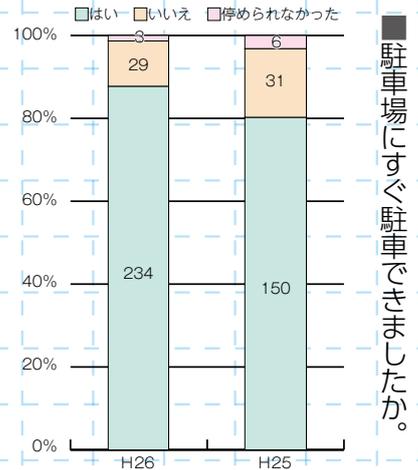
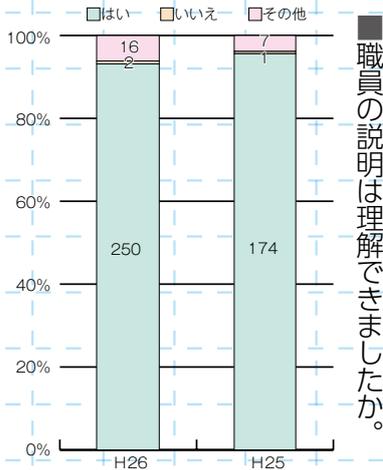
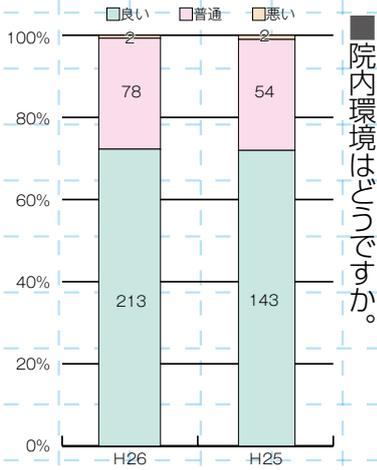
待ち時間は長かったですか。



職員から患者さんへの説明がありましたか。



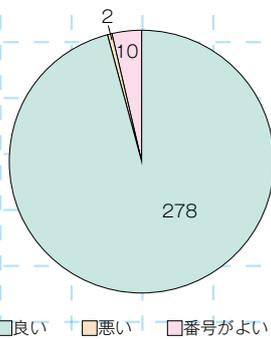
笑顔はありましたか。



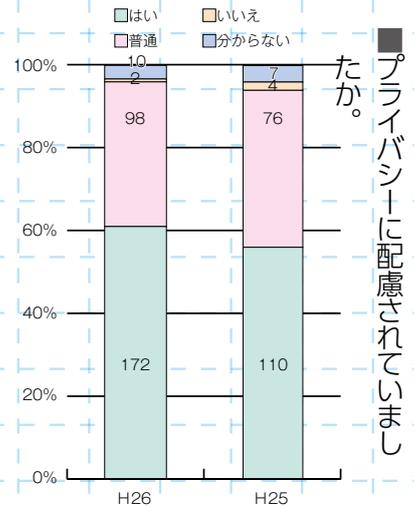
満足度
80%以上の割合

今回 90.0%
昨年 86.1%

総合評価な満足度は何%程度ですか。



呼び出し方法はごうでしたか。



ご意見

- 今回の待ち時間は短かったのですが、前回は長く、できる限り待ち時間を短くしてほしい。
- 支払いの時間が長い(待ち時間)。患者への心配りはとても良いと思っ
- た。
- 職員の対応が親切丁寧です。検査等の時間まで割りとかかるとき、だいたい時間を知らせてもらえると、付きそい等の食事が考慮できる。
- 別に何も言うことはありません。順調にいき、待ち時間もなく助かりました。
- 以前、来たときよりも待ち時間がなくて良かった。
- 今日は駐車場があり、良かったが、曜日によっては駐めることができず、2〜3周回する時もあり、もう少し広い駐車場があれば良いと思います。
- 皆さん私ですがマスクをされています。いつもより少し大きな声で話してくださいれば聞き取りやすい気がしました。
- 患者はついつい心が弱くなる事があります皆様の優しい言葉一つで元気をもらい頑張ろうという気持ちになります。特に医師先生は心の支えとなります。今日はありがとうございました。これからもよろしくお願
- い致します。
- 心配事がある時、すべて、看護師と、医者と話ができる。安心です。血液検査の結果がわかり、診察中も質問等ができてとても良いです。
- 親切で、思いやりがある対応で感謝しています。私にはパーフェクトでした。

アンケートを終えて

平成27年2月実施の外来満足度調査へのご協力ありがとうございました。遅くなりましたが、集計結果を報告させていただきます。平成25年10月に実施いたしました調査と比較しますと全体的に満足していただいているという評価が、向上していただくことは有難く思っております。また、個々にたくさんのご意見の感想のご意見をいただき職員の励みにも繋がっております。一方で、待ち時間や駐車場等へのご要望もありましたので、少しでも改善できるよう取り組んでまいります。また、院内には「ご意見箱」も配置しておりますので、お気づきなられたことをお聞かせください。ご協力に感謝申し上げます。

サービス向上委員会

看護部だより **ひまわり** Vol.35

外来化学療法室の看護師は、患者の病状、治療と向き合うにも短時間であり、また病状が悪化してくると入院になる事から、外来での関わり方の限界を感じていた時、結腸癌で外来化学療法に通院している60代の女性がおられ、普段から帽子をかぶり、とてもおしゃれな装いをされ、スタッフの間でも話題になっていました。しかし徐々に状態が悪化し主治医から入院の話がでましたが、本人は自宅ですできるだけ過ごしたいと希望されました。3階の自宅から息子さんがおぶって階段の昇り降りをしなればならぬくらい体力が低下していました。「体は自分で何とか拭けるけど、もう何日も髪を洗っていないんです」と話されました。身の回りの清潔行為も行えない状況になり、普段のおしゃれな姿を見ていただけに、なんとかしてあげたいと思い、洗髪と清拭の計画を立てました。患者さんが受診されたケア当日に私は勤務ではありませんでしたが外来化学療法室担当看護師と緩和ケア認定看護師で洗髪と部分清拭を行いました。患者さんから「気持ちよかったあ。ありがとう」の言葉があったと後日報告をもらいました。外来の業務の中で清潔ケアをすることはかなりめずらしく、私達も外来で実施ができたこと、患者さんの希望に添えることができたことへの達成感と患者さんからの言葉に皆で喜び、共有できたことがとても嬉しかったです。その一週間後に入院され、お孫さんの1歳の誕生日を病室でお祝いし、その後家族が見守る中、亡くられました。

患者とのコミュニケーションの中からどうしてほしいか、どういう生き方をしていきたいか、寄り添いながら、外来看護や在宅看護などをさまざまな職種と連携し身体的・精神的サポートができるように、これからも心がけていきたいと思えます。

外来 奥 麻衣

新人紹介

1月～3月までに
私達の仲間となったスタッフを
ご紹介いたします。
どうぞよろしくお願いいたします



有川 朋芳
循環器内科
医師

平成27年1月1日付けで循環器内科の川畑先生の後任として赴任致しました。金沢医科大学出身で鹿児島大学病院で2年間の卒後臨床研修を行い平成24年に旧第一内科に入局致しました。これまで鹿児島大学病院、鹿児島市立病院で診療しておりました。いちき串木野に父方の実家があることもあり川内には縁を感じております。少しでも川内市民病院の力になれるように、また薩摩川内地区の患者さまのためになれればと思っております。経験も実力も未熟であります故、他科の先生方、スタッフの方々には御迷惑をおかけするかと思います。御指導・御鞭撻宜しくお願い致します。



尾崎 小百合
地域包括ケア病棟
看護師

中途採用で入社しました。慣れない環境でご迷惑かけますが、初心にかえってまた新たな気持ちで頑張ります。



森 勇介
3階東病棟
看護師

1月より入職し、3東病棟にお世話になることとなりました。経験も浅く、皆様に色々ご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯頑張ります。どうぞご指導のほどよろしくお願いいたします。



福元 由美子
3階東病棟
看護助手

1月から勤務する事になりましたので、宜しくお願いします。



宅間 純
4階東病棟
看護師

1月から4東病棟勤務になりました。患者、スタッフから信頼される看護師になれるようにと思えます。よろしくお祈り致します。



下永田 貴子
4階西病棟
看護助手

1月に入職致しました。病院での勤務は、初めてなので色々教えてもらい頑張りたいです。よろしくお祈り致します。



松本 戸美子
3階西病棟
看護助手

2月から3階西病棟で看護助手として働かせてもらっています。少しでも早く仕事を覚えて、早く環境になれて頑張りたいと思えます。たくさんご迷惑をおかけしますが、頑張りますのでよろしくお願いいたします。



瀬戸 亜利沙
4階東病棟
看護助手

3月から看護助手として働かせていただいています。分からない事がまだ多くあり、皆さんにご迷惑をおかけしますが一生懸命がんばりたいと思えますので、よろしくお祈り致します。



秋山 美保
回復リハビリ病棟
看護助手

3月に看護助手として入職しました。日を追うごとにADLが向上していく患者様を目の当たりにして、リハビリテーションのすごさを感じています。介護技術や知識の向上に努め、患者様のお役に立ちたいと思っております。



福永 麻美
外来
看護師

3月から外来で働かせていただくことになりました。約9年ぶりの仕事になります。仕事にも早く慣れるようにがんばりたいと思います。宜しくお願いします。



古田 由香里
4階西病棟
看護助手

少しでも早く職場の環境に慣れ、仕事を覚えられる様に頑張ります。ご迷惑をおかけしますが、ご指導の程よろしくお願いいたします。



上蘭 由美
事務部
総務管財課

1月より入職いたしました。「また、この病院を受診したい」と言って頂けるような人の温かさが伝わる接遇を心掛けて参りたいと思っております。宜しくお願い致します。



杉安 真弓
地域医療連携室
予約係

1月に入職いたしました。早く職場に慣れて、覚える事も沢山あると思いますが一生懸命頑張りますのでよろしくお祈り致します。



椿本 省吾
地域医療連携室
臨床心理士

3月から地域医療連携室で勤務することになりました。病院勤務は初めてで、皆様にご迷惑をおかけすることも多いかと思えます。貢献できるように一生懸命頑張っていくのでご指導よろしくお願いいたします。

豆まき



2月3日(火) ちゅうりっづ園で節分の豆まきが行われました。追い回す赤鬼・青鬼の迫力にたまらず泣き出す子どもたちも、勇気を出して一生懸命鬼に向かって豆を投げていました。豆まきで邪気を払い福を呼び込んで、子どもたちは今年も良い一年になりそうです。

菜の花マラソン



1月11日(日) 第34回いぶすき菜の花マラソン大会が開催されました。絶好のマラソン日和の中、国内外から特別招待選手2名を含む19,364名がエントリー。鮮やかな満開の菜の花と市民ボランティアによる応援の中、当院からも大勢の職員が参加しました。

NEWS

Sendai Medical
Association Hospital
January- March



今月のスマイル

職場実習



リハビリテーション学科の大学生・専門学校生6名が1月から3月の期間に、3週間から8週間当院で実習をしました。実習内容は、日ごろなかなか患者さんに触れる機会がない学生が実際に患者さんに触れる臨床実習です。当院では、学校で学んだ知識と臨床像を結び付けられるような指導や、細かな触り方と手を触れる位置等の指導をしています。実習した学校は以下の通りです。

学校名

大分リハビリテーション専門学校
鹿児島医療技術専門学校
鹿児島第一医療リハビリ専門学校
九州看護福祉大学

ひなまつり



3月3日(火) ちゅうりっづ園では、ひなまつりのお祝いをしました。ひなまつり由来のお話を聞き、パネルシアターなどで楽しんだ後は、小さなお内裏様とお雛様になって写真撮影をしました。楽しいひなまつり会となりました。

職場体験



2月20日(金) 薩摩川内市川内中央中学校2年生の女子3名、男子1名が当院で職場体験をしました。体温・脈拍・血圧の測定方法や感染予防の手洗い、院内見学や医師へのインタビューを体験してもらいました。

清掃ボランティア



3月17日(火) 17時15分より清掃ボランティアが行われました。毎月2回第1、第3火曜日にサービス向上委員会の職員が中心になって行っています。今回も多数の職員の参加があり、病院敷地内や周辺のごみ拾いを行いました。

回復病棟レクリエーション



3月14日(土) リハビリテーション病棟で、患者さんと病棟スタッフによる毎月1回のレクリエーションが行われました。今回は、春にちなんで桜の木の貼り絵を行い、病棟内の壁に満開の貼り絵の桜をみんなで咲かせました。近隣の桜の木が満開なる日が待ち遠しいです。

お別れ遠足



3月12日(木) ちゅうりっぷ園のお別れ遠足が行われました。遠足日和の晴天のもと、ちゅうりっぷ園から日笠山の頂上まで、およそ3キロメートルの道のりを一生懸命に登りきりました。山頂に到着した園児たちは、近くを探検したり展望台からの市内の眺めを楽しんだ後に、お弁当やおやつをたくさん食べました。思い出いっぱいの楽しい遠足になったようです。

防災訓練



3月30日(月) 防災訓練があり、厨房のコンロ付近から出火したという想定で行われました。リハビリ中の患者さんは避難所へ誘導し、病棟の患者さんは非常階段より避難所へ避難しました。また、防災側非常階段前にて、消防機器業者による避難器具の操作説明があり、実際に要救護者役の職員を非常階段から搬送する訓練も行いました。

卒園式



3月28日(土) 院内保育所にて第21回保育証書授与式が行われ、立派に成長した3名の園児が保育証書を受け取りました。ちゅうりっぷ園での楽しい思い出を胸に、小学校でもよく遊びよく学び、たくさんの友達をつくって欲しいです。ご卒園おめでとうございました。

お別れ会



3月26日(木) ちゅうりっぷ園でお別れ会が行われ、犬のおまわりさんなどの劇や妖怪ウォッチのようかい体操をしました。最後にみんなで色とりどりの種類豊富な料理をバイキングで楽しみました。

第28回

身体に優しい健康レシピ



「スナップえんどうとじゃがいものカレー炒め」

エネルギー：92kcal、たんぱく質：1.8g、脂質：3.2g、塩分：0.2g

作り方

- ①じゃがいもは皮をむいてくし形に切り、下茹でする。
- ②スナップえんどうはスジをとる。1分ほど、熱湯で加熱する。
- ③フライパンにマヨネーズを入れ、火をつける。
- ④マヨネーズが溶けてきたらニンニクを入れ、香りがでてきたらじゃがいもを炒める。
- ⑤じゃがいもに焼き色がついたら、スナップえんどうを入れカレー粉を加える。
- ⑥塩・こしょうで味をととのえる。



材料(1人分)

スナップえんどう… 5本
 じゃがいも…………… 70g
 マヨネーズ…………… 4g
 ニンニク(チューブ)… 1g
 塩…………… 少々
 こしょう…………… 少々
 カレー粉…………… 0.6g

●春の食材

温かい春の日差しが心地よい季節になりました。今回はスナップえんどうと新じゃがいもを使ったカレー炒めを紹介します。

スナップえんどうは、βカロテンやビタミンB1・B2・C等のビタミン類、カリウムが豊富に含まれ、βカロテンとビタミンCの相乗効果で抗酸化作用が高まるといわれています。また、さやごと食べることで食物繊維もしっかりとることができ、整腸効果もえられます。

塩茹でてサラダなどで食べることが多いスナップえんどうですが、マヨネーズを少し加えコクを出し、いつもと違うカレー風味に仕上げました。スナップえんどう特有の食感が楽しめる一品です。

管理栄養士 加藤 恵理

リレーエッセイ

「必要と当然」

栄養管理部

加藤恵理

私が医療という現場に踏み込んでから1年が経ちました。この1年間で、食事を食べられなくて悩む人、食生活改善ができなくて困っている人など多くの方々と接してきました。

食欲不振や嚥下障害、さまざまな理由で口から食事をすることが困難な人たちがいます。そんな人たちの何か手助けができないかと、栄養を食事へと変えるために試行錯誤するこの職業はやりがいもありとても気に入っています。しかし、ふと自分を振り返ると自分自身の食事に対してはあまりにも無関心だと思いました。食事をするとということが当たり前すぎて、ついっぴないがしろにしてしまいがちだと思います。栄養士である自分自身ですら、自らの食事に対してはできとくに済ませてしまうことが多々あります。

食事に関して悩みを持つ人たちと関わっていく中で、食事をするということは必要なことではあるが、食事ができるということとは決して当たり前ではないと思うようになりました。

栄養士として出来ること伝えられること、いろいろあると思います。私と関わることで相手にとって普段の何気ない食事について考える機会になればと思います。そして食事ができる幸せというものについて私自身ももっと考えていきたいなと思います。